

特別の教科 道徳学習指導案

日 時 令和元年11月8日(金) 6校時

場 所 体育館

学習者 2年A組

(男子13名、女子11名、計24名)

指導者 佐々木 富美子

I 主題名 たがいに支え合う社会 (内容項目 C(12) 社会参画、公共の精神)

II 教材名 『 今度は私の番だ 』 (新しい道徳2 東京書籍)

III 主題設定の理由

1 ねらいとする価値

内容項目を社会参画・公共の精神とする。個人が安心・安全によりよく生活するためには、社会の形成を人任せにするのではなく、主体的に参画し、社会的な役割と責任を果たすことが大事である。そこで、今回の学習を通して、生徒一人ひとりに自分も社会の一員であるという自覚を深めるとともに、互いに積極的に協力し合おうとする意欲を育てることが大切であると考えます。

「社会」に対して、中学生になった自分自身ができることは何だろうか考える機会とし、自分の特性やこれまでの経験を生かして、社会に対して行えることに気づき、具体的な行動を見つける機会としたい。

2 生徒の実態

単一学級で、小学校から相互の関係性が固定化し、競争心の低さが見られる。日頃より、困っている他者のために動ける様子が伺える。先日の台風19号では、学校の坂道が土砂で埋まった。土砂除去作業時には、『この坂道を使う人が困らないように』という見返りを求めずに活動する様子が見られた。本教材を通して、社会の一員として自分ができることには何かあるかと考えさせる機会としたい。

3 指導観

本教材は、東京オリンピック・パラリンピック招致演説のプレゼンターとして有名になった佐藤真海さんの活動から「あきらめない気持ち」や「命の大切さ」「スポーツのもつ力」を伝えていく心情の変化を追うことで、生徒が自分自身と照らし合わせ、共感できる教材である。

ハンディキャップがある中で、自分の特性や適性、長所、努力をし続けた佐藤真海さんの生き方に目を向けることで、自分自身の特性や適性に気づき、『中学生の自分が社会や周囲のためにできることは何だ』と考え、その中で『自分でも社会や周囲のためにこういうことができるのだ』と自己有用感に繋がる考えを促したい。

IV 研究主題との関連

- (1) 本校の研究主題の副題へ位置付けているように「特別の教科 道徳」においても生徒の活動を促す発問の工夫を行っている。教材を自分事として考えるための主発問を吟味している。本時の主発問では、生徒自身が具体性を持って考えることをねらいとしている。そのため、「自分自身が社会や周囲のためにできることには何かあるか」とした。
- (2) 音声での内容理解が苦手な生徒への支援として、花輪スタンダードの視点をういた方策を本時でも行っている。導入場面では、佐藤真海さんを視覚的に提示することで興味関心を持ちやすいようにしている。

V 本時の学習

1 本時のねらい

互いに支え合う社会の中で、自分自身が社会や周囲のためにできることについて考え、具体的な行動を起こそうとする態度を育てる。

2 本時の展開

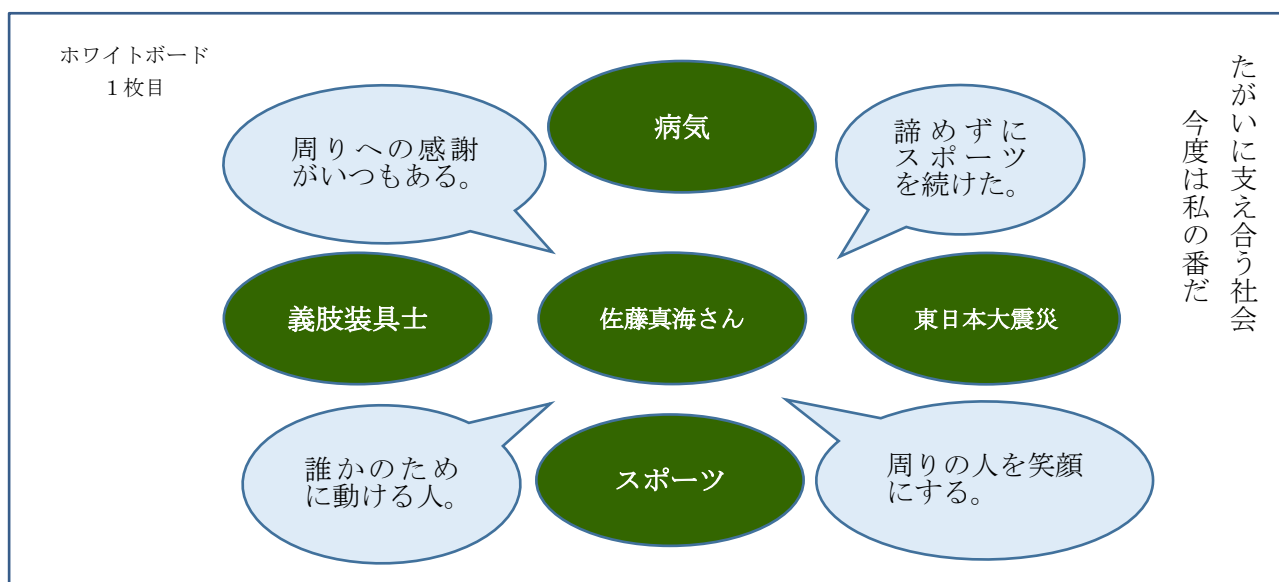
	活動内容	□指導の内容 ●主な発問 ■生徒の活動 ◆予想される生徒の反応	留意点 (発問のねらい等)
導入 (5分)	<つかむ> 佐藤真海さんについて知る。	□佐藤真海さんの写真を紹介する。 ■写真を見る。 ◆東京オリンピック招致のニュースで知っている。 ◆どこかで見たことがある。	・事実だけに触れ、佐藤真海さんの人物像(内面)については触れない。
	<見通す> 佐藤真海さんと社会との繋がりを知る。	□教材の内容を簡単に説明し、本時の内容に対して見通しを持たせる。 ●佐藤真海さんは、スポーツや震災を通して誰かのために自分ができることについて気付いていきます。	・佐藤真海さんが社会とどのように繋がっているかを授業者主導で捉えさせることで、余計な私情を持たせない。
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>本時の課題 互いに支え合う社会のために、何ができるかを考えよう。</p> </div>			
展開 (30分)	<さぐる> 本時の教材を範読する。	■授業者の範読を聞く。 ◆目で追いながら、静かに聞き入る。	
	<広げる> 佐藤真海さんの行動についてどう思うか。	□佐藤真海さんの行動で心が動かされたことは何かを考えさせる。 ■教材文を振り返りながら発問をしている。 ◆右足を失いながらも真海さんは走った。 ◆被災地を笑顔にした。	・佐藤真海さんの行動から『自分自身の行動』を見つめさせる。
	<深める> 自分には何ができるだろうか。	●互いに支え合う社会のために、あなたができることには何があるか。 ■学習プリントへの記入。 ◆これまでのボランティア活動や生徒会活動を振り返りながら記入をしている。 ◆現実的に相手や地域のためにできそうなことを書いている。	・「できる」「できない」ではなく、現実的思考としての考え方に辿り着かせる。

<p>まとめ (15分)</p>	<p><ふりかえる> 今日の授業で考えたこと。</p>	<p>□今の自分が社会や誰かのためにできることについて、ふりかえりをする。</p> <p>■発問</p> <p>■学習プリントへの記入。</p> <p>◆誰かのために自分ができていることを自分から行動したい。</p> <p>◆みんなを幸せにできるものが自分にとっては何なのかを考えることができた。</p>	<p>・佐藤真海さんの姿を通して、自分自身を見つめ、現実的に自分ができていることについて考えさせる。</p>
----------------------	---------------------------------------	--	--

3 本時の評価

現在の自分自身を見つめ、社会や周囲のために自分にできることは何かと考えを深めている。
(生徒のつぶやき、発言、学習プリントの記述)

VI 板書計画



ホワイトボード
2枚目

互いに支え合う社会のために、何が
できるかを考えよう。

- ・ボランティア活動
- ・赤い羽根共同募金
- ・土砂除去作業
- ・花中祭でのおもてなし活動

←

- ・相手が求めていること、嬉しいことを考えて何かできることをしたい。
- ・お金とか褒められるではなくて、喜んでもらえることを第一にして行動する。
- ・相手も自分も嬉しくなることをする。
- ・重たい荷物を持っている人に声を掛けて手伝いたい。
- ・もし、また土砂災害があったら、今度は学校以外の困っている人へもお手伝いに行きたい。

授業の流れ

→ **つかむ**

見通す

さぐる

広げる

深める

ふりかえる

VII 年間指導計画

学期	月時	主題名	資料名		学習内容
1 学期	4月 ③	良好な関係を目指して	1	あいさつ	礼儀
		生活習慣を見直そう	2	ぱなしの女王	節度, 節制
		よりよい社会を目指して	3	住みよい社会に	社会参画, 公共の精神
	5月 ③	いじめのない世界へ (1)	4	私のせいじゃない	公正, 公平, 社会正義
		いじめのない世界へ (2)	5	あの子のランドセル	自主, 自律, 自由と責任
		いじめのない世界へ (2)	6	どんなことでも相談し合える仲間に	自主, 自律, 自由と責任
	6月 ④	情報モラルと友情	7	ゴール	友情, 信頼
		あきらめない気持ちで	8	左手でつかんだ音楽	希望と勇気, 克己と強い意志
		歩調を合わせて	9	遠足で学んだこと	相互理解, 寛容
		正義を追い求めて	10	渡良瀬川の鉱毒	公正, 公平, 社会正義
7月 ②	「今」を生きる私のために	11	私は十四歳	向上心, 個性の伸長	
	郷土の魅力にふれて	12	祭りの夜	郷土の伝統と文化の尊重, 郷土を愛する態度	
2 学期	8月 ①	例えば君なら	13	許さない心	遵法精神, 公德心
	9月 ④	例えば君なら	14	「決まり」を守る社会を創るために, あなたにもできること	遵法精神, 公德心
		「和食」の良さって何だろう	15	心でいただく伝統の味	我が国の伝統と文化の尊重, 国を愛する態度
		安全につながる日常の大切さ	16	田老の生徒が伝えたもの	節度, 節制
		相手の立場で	17	なみだ	相互理解, 寛容
	10月 ④	誇りを胸に	18	四十七年に感謝をこめて	よりよい学校生活, 集団生活の充実
		本当の友情とは	19	みんなでとんだ!	友情, 信頼
		だれのために働く	20	震災の中で	勤労
		だれのために働く	21	お弁当のことで文句を言われた場面をやってみよう	勤労
	11月 ③	垣根をこえて	22	六千人の命のビザ	国際理解, 国際貢献
		真実を求め続けて	23	赤土の中の真実	真理の探究, 創造
		たがいに支え合う社会	24	今度は私の番だ	社会参画, 公共の精神
	12月 ②	敬意をもって自然と接する	25	夜は人間以外のものの時間	感動, 畏敬の念
人間の強さ・気高さ		26	人間の強さ・気高さ	よりよく生きる喜び	
人間の強さ・気高さ		27	本当の私	よりよく生きる喜び	
3 学期	1月 ③	日本の心にふれる	28	大切なものは何?	我が国の伝統と文化の尊重, 国を愛する態度
		気持ちをこめて	29	心に寄りそう	思いやり, 感謝
		いのちを考える (1)	30	奇跡の一週間	生命の尊さ
	2月 ④	いのちを考える (2)	31	妹に	生命の尊さ
		いのちを考える (2)	32	三つのいのちについて考える	生命の尊さ
		支え合いの中で	33	愛	思いやり, 感謝
		思いを形に	34	ごめんね, おばあちゃん	家族愛, 家庭生活の充実
	3月 ②	自然環境に優しく	35	冬の使者「マガン」	自然愛護

